

兵庫県のアトキリゴミムシ類 (1)

森 正人¹⁾

はじめに

アトキリゴミムシ類は樹上に生息する樹林性の種類が多く、一部は草地環境や水辺、林床などにも見られる。採集には主に広葉樹枝葉のビーティングやスィーピングが有効だが、生息環境の掌握や事前の生態情報を踏まえた調査をしないと、ファウナの把握はなかなか難しい。この仲間には、特殊な生態や特別な食性を示す種類が知られており、一部の種では特定のハムシ類やガ類などの幼虫食、あるいはケラの卵食、またアリ類との特殊な関係を示す様な変わった生態情報があるが、ほとんどの種類ではまだまだ情報に乏しい。

兵庫県におけるアトキリゴミムシ類については、古くはベーツ (H. W. Betes) が神戸付近の標本で比較的多くの新種を記載している。その後の記録は断片的なものも多く、県内のファウナは十分に把握されていない。ここでは、兵庫県におけるアトキリゴミムシ群 *Truncatipennes* のこれまでの記録と筆者の手許にある標本記録を整理しておきたい。ここで扱うのはオサムシ科 Carabidae に属するクビナガゴミムシ亜科 Odacanthinae, ヒラナガゴミムシ亜科 Ctenodactylinae, ツブゴミムシ亜科 Pentagonicinae, トゲアトキリゴミムシ亜科 Cyclosominae, アトキリゴミムシ亜科 Lebiinae の一部である。なお、続報の (2) ではアトキリゴミムシ亜科の残りとしてスジバネゴミムシ亜科 Zuphinae, ホソゴミムシ亜科 Dryptinae, およびホソクビゴミムシ科 Brachinidae の記録の整理を予定している。なお、上位分類 (亜科, 族など) については研究者によって扱いが異なるが、ここでは大倉 (1985) に準拠し、学名は LÖBL・SMETANA (2003) に従った。

掲載記録は種ごとに文献記録と標本記録に分け、文献記録については記載された記録地名と出典情報を明記した。地名は原則的に文献記載の地名そのままを転用し、重要と思われるものについては採集データや採集者等の詳細内容も加えた。標本記録については、筆者の手許にある標本のなかから、原則 1 産地 1 例とし、採集頭数・採集地・採集データを明記した。採集者については、筆者以外のものは採集者を明記し、筆者採集のものはこれ

を省略した。生息環境や生態情報、全国分布、基産地などについても知り得た範囲で記述した。

各種解説

1. フタモンクビナガゴミムシ *Archicolliuris bimaculata nipponica* Habu, 1963

【文献記録】篠山町 (岸田剛二ほか: 1975), 出石町ほか (高橋匡: 1982), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか: 2003), 多可郡中町 (松尾隆人: 2003), 三田市 Oiso, 川西市笹部, 川西市大和 (初宿成彦: 2012)。

【標本記録】2exs, 八鹿町円山川, 23-V-2011; 1ex, 上郡町安室ダム, 25-IV-1999; 6exs, 赤穂市千種川, 9-XII-2000; 14exs, 三木市美嚢川, 2-IV-2000; 3exs, 小野市加古川, 2-X-2011; 2exs, 神戸市道場 (武庫川), 5-X-1997。

日本では本州・四国・九州に分布。兵庫県では比較的大きな河川を主体に、時折ダム湖や池沼周辺で見られることがある。生息地数も多くまた一般的に個体数も多い。典型的な「河川性種」で、植物体の根際や茎葉上に登って活動する個体も多く観察される。灯火にも飛来し、冬季は河川周辺の植物根際や土中などで越冬個体が見られ、時に集団越冬となる。土生 (1958) は本種が稲の葉上のウンカを攻撃してよく食べることを報告している。クロオビクビナガゴミムシは異名。本種と次種はクビナガゴミムシ亜科に属している。

2. チャバネクビナガゴミムシ *Odacantha (Heliocasonia) aegrota* (Bates, 1883)

【文献記録】明石市明石松江海岸, 明石川河口, 神戸市舞子浜 (河上ほか: 2000), 赤穂市千種川河口, 姫路市市川河口, 加古川市加古川河口, 明石市明石川, 神戸市魚崎, 神戸市舞子ヶ浜 (初宿成彦: 2012)。

【標本記録】1ex, 豊岡市神鍋高原, 20-VIII-2012; 2exs, 豊岡市岩井, 12-X-2011; 5exs, 香美町ハチ北高原, 21-VIII-2012; 3exs, 城崎町桃島池, 8-VII-1998; 6exs, 八鹿町円山川, 23-V-2011; 2exs, 柏原市柏原川, 5-VIII-2011; 4exs, 篠山市弁天橋, 27-III-2010; 2exs, 青垣町佐治川,

¹⁾ Masato MORI 環境科学大阪 株式会社

10-VIII-1995; 2exs, 稲美町, 4-IV-1999; 2exs, 赤穂市北野千種川, 4-VII-2011; 9exs, 御津町揖保川, 7-VII-2003; 1ex, 三田市羽束川, 6-X-2000; 7exs, 神戸市藍那, 9-VIII-2002.

新潟, 東京が原産で, 北海道(奥尻島), 本州, 四国, 九州に広く分布. 文献記録では南部に偏っているが, 県内広域に分布し, また個体数も多い. 主に池沼など水辺周辺に生息し, ヨシやガマ類など抽水植物の植物体や根際などで多く見られ, また灯火にも飛来する. ハネアカクビナガゴミムシは異名.

なお, 本種によく似たブロンズクビナガゴミムシ *O. metallica*, またはその近縁種が九州各地や山口・広島・岡山県など中国地方各地から記録・報告されているが, 県内では今のところ見つかっておらず, 同好者の注意をお願いしたい. これは, 色彩・形態がチャバネクビナガによく似ているが, 上翅はやや金属光沢を帯びやや長型, ♂の交尾器では明瞭に区別が出来る(西田, 2000を参照). また, このほか, 本亜科ではナガサキクビナガゴミムシ *Eucolliuris litura* が広島県から記録されている. この種は九州に産地が多い南方系の種類で, 筆者は紀伊半島においてススキの大きな株根際から数多く採集した経験があり, 兵庫県内でも同様の環境に生息の可能性があると考えている. さらに, 北方系のナカグロキバネクビナガゴミムシ *O. puziloi* も分布可能性がある. より細型で体が軟弱な感じがするもので, 滋賀県あたりまでの記録がある. ともに注意をお願いしたい.

3. クロモンヒラナガゴミムシ *Hexagonia insignis* (Bates, 1912)

【文献記録】神戸市藍那, 宝塚市山本南(森正人: 2012).

【標本記録】1♀, 神戸市藍那, 21-VI-2002, 熊代直生採集; 2♂3♀, 神戸市藍那, 10-X-2011.

なかなか素敵なゴミムシで, 森(2012)が兵庫県内での初記録や生態情報などを本誌に報告したが, それ以降の調査では新たな県内の産地情報は得られていない. 近畿地方では, 京都市の宇治川河川敷のヨシ原で新たに確認でき, 産地情報は少しずつ増えている. 日本では本州・四国・九州に分布. 原産地は熊本県湯山, 人吉. 本種はヒラナガゴミムシ亜科に属している.

4. ダイミョウツブゴミムシ *Pentagonica daimiella* Bates, 1892

【文献記録】篠山町雨石山(林靖彦ほか: 1995).

【標本記録】1ex, 神戸町砥峰高原, 28-VI-2009; 1ex, 神戸市道場, 18-VI-1994.

長崎原産で, 日本では北海道・本州・四国・九州・南西諸島に広く分布するが, 兵庫県内の記録は意外と少ない. 本属の種類は一般的に落葉下など林内土壌で得られることが多く, ビーチングなどでは得にくい. 本種

は, 灯火に飛来することも多く, またガマズミなどの花で得られた例もある. 本種以下3種はツブゴミムシ亜科に属している.

5. カドツブゴミムシ *Pentagonica angulosa* Bates, 1883

【文献記録】篠山町雨石山(林靖彦ほか: 1995), 出石町ほか(高橋匡: 1982), 神戸町砥峰高原(八木剛ほか: 2003), 佐用町船越(藤江隼平ほか: 2011), 三田市Oiso, 川西市菅部, 川西市大和, 神戸市摩耶(初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 波賀町掘, 1-VIII-1995; 1♂, 神戸町砥峰高原, 13-IX-2009; 1♀, 神戸市藍那, 10-X-2011.

北海道・本州・四国・九州・南西諸島に広く分布する. 原産地は湯山(熊本), 柏木(奈良), 日光. 兵庫県内の記録は少ない. 全国的には広葉樹のピーティングで得られた記録, 森林内の朽ち木下で得られた例, 古い獣の死体の下から得られた記録, キノコに来ていた例などが報告されている.

6. クロツブゴミムシ *Pentagonica subcordicollis* Bates, 1873

【文献記録】篠山町雨石山(林靖彦ほか: 1995).

【標本記録】1ex, 三木市シビレ山, 9-VIII-2003; 1♂, 新宮町角亀峠, 25-IV-1999.

北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布. 原産地は長崎. 本種の記録も少なく, 他府県では灯火で得られた記録や, 冬季に落葉下から得られた採集例などが報告されている. 本種は前種に似ているが, 前胸背に微細印刻がなく, 光沢が強いことで区別できる.

7. トゲアトキリゴミムシ *Aepnidius adelioides* (MacLeay, 1825)

【文献記録】氷上郡(岸田剛二ほか: 1975), 洲本市安乎町ほか(高橋寿郎: 1998), 柏原町(吉武啓ほか: 2011), 神戸市舞子浜, 神戸市須磨浦(河上ほか: 2000), 神戸市本山, 神戸市須磨浦, 神戸市舞子ヶ浜, 西宮市甲子園浜(初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 神戸市道場, 27-VI-2004; 5exs, 御津町揖保川, 7-VII-2003; 1ex, 西宮市すみれ台, 20-V-2006; 3exs, 姫路市広畑夢前川, 16-X-2010.

本州・四国・九州・南西諸島に分布. 原産地はJava. 兵庫県内には広く分布している. 河川敷や畑地, 荒地などやや乾燥した環境で得られることが多く, 灯火にも飛来する. 成虫で土中越冬をする. 本種はアトキリゴミムシ類らしくない色彩と体型で, ある種のマルガタゴミムシ類やゴモクムシ類に似ているが, 脛節には頑丈な複数のトゲを具えるなどの変わった特徴がある. トゲアトキリゴミムシ亜科に属している.

8. ダイミョウアトキリゴミムシ *Cymindis (Menas) daimio*
Bates, 1873

【文献記録】猪名川 (福貴正三: 1935).

【標本記録】1ex, 南淡町吹上浜, 14-X-2001.

北海道では個体数が多く, 原野の側溝などで多く拾うことができるが, 近畿地方では個体数が少ない. 乾燥地を好む種類で, 鳥取砂丘の砂地環境で比較的多くの個体を見たことがある. 県内では淡路島南端吹上浜の倒木下の砂地でようやく採集することができた. 淀川 (大阪) では河川堤防付近で採集したことがあり, このようなやや乾燥した環境を意識して捜せば, 今後記録が増えるかも知れない. 長崎が原産で北海道・本州・四国・九州に分布. 灯火にも飛来する. ダイミョウゴミムシは異名. 本種以下 30 番まではアトキリゴミムシ亜科に属している.

9. コキノコゴミムシ *Coptodera (Coptoderina) japonica*
Bates, 1883

【文献記録】川西市一庫, 川西市笹部, 宝塚市滝ヶ平, 猪名川町三草山 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1♂2♀, 宍粟市赤西溪谷, 16-VII-2011; 1♀, 宍粟市音水溪谷, 20-IX-2008; 1♂, 吉川町, 16-V-1994; 2exs, 神戸市藍那, 9-VIII-2002.

九州原産, 本州・四国・九州に分布する. 県内の記録は多くない. ヒラタケ類などがたくさん生えた衰弱木や立枯れ木で見られることが多く, *Episcapha* 属のオオキノコムシなどと同居している. 昼間の動きは極めて敏捷で捕まえるのに大変苦労する. 活動時間帯は主に夜中で, 樹液が出ている樹幹で見られることも多い. 冬季にケヤキ樹皮下で越冬個体が得られた例がある.

10. ヒメキノコゴミムシ *Coptodera (Coptoderina) osakana*
(Nakane, Ohkura et Ueno, 1955)

【文献記録】氷上郡 (岸田剛二ほか: 1975), 川西市笹部 (初宿成彦: 2012).

原産地は大阪と京都で, 本州・九州に分布する. 県内の記録はさらに少なく, 筆者は未採集. 前種と同様の環境に見られ, 混生している場合もある. ケヤキ樹皮下で越冬個体が得られた記録がある. 前種とやや似ているが, 本種の方が前胸背の幅が広く, 黄褐色の側縁部が広く上反すること, ♂交尾器中央片先端部が円い (前種では尖る) ことなどで区別できる. 斑紋は両種とも変異するので注意が必要.

11. ハギキノコゴミムシ *Coptodera (Coptoderina) subapicalis* Putzeys, 1877

【文献記録】篠山町 (岸田剛二ほか: 1975), 篠山町雨石山 (林靖彦ほか: 1995), 氷ノ山ほか (高橋匡: 1982), 神戸市六甲山 (八

木剛ほか: 2002), 加美町鳥羽 (兵庫昆: 2001), 川西市黒川, 猪名川町上阿古谷, 猪名川町木間生, 上籠坊, 篠山町 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】2exs, 豊岡市新堂, 18-V-2011; 2exs, 宍粟市赤西溪谷, 16-VII-2011; 1♀, 宍粟市音水溪谷, 20-IX-2008; 1♂, 神河町砥峰高原, 13-IX-2009; 1ex, 三田市小柿, 30-VII-2005; 1♀, 神戸市藍那, 10-X-2011.

北海道・本州・四国・九州・南西諸島に広く分布する. 県内にも広く分布し個体数も多い. 倒木や朽木, 立枯木, 衰弱木など広汎な植物体で見られる. ふつうは上翅後半部に波形斑紋があるが, ときに斑紋が消失したり, 前紋が表れるなど斑紋変異があり, マダラキノコゴミムシ *Coptodera eluta* (県内では未確認) と紛らわしい個体もある. マダラキノコとは翅端の形状 (本種は丸いが, マダラキノコでは鋭角となる) で区別ができる.

12. キノコゴミムシ *Lioptera erotyloides* Bates, 1883

【文献記録】篠山町雨石山 (林靖彦ほか: 1995), 扇ノ山ほか (高橋匡: 1982), 神戸市藍那 (徳平拓郎ほか: 2010).

【標本記録】4exs, 神戸市藍那, 9-VIII-2002; 2exs, 神戸市道場, 12-VIII-2007.

北海道・本州・四国・九州に分布, 原産地は湯山 (熊本), Junsai (北海道?). 県内では広く分布するが, 記録は多くない. コキノコゴミムシやヒメキノコゴミムシと同様の環境に見られるが, 一般にはより少ない. 冬季に乾燥したガケから掘り出された記録や, 樹幹の窪みに潜んでいた例がある. 以前はオオキノコゴミムシと呼ばれ, かなり珍重されたが, 最近は何故か目に触れる機会が多くなったように思える.

13. コヨツボシアトキリゴミムシ *Dolichoctis striatus striatus* Schmidt-Goebel, 1846

【文献記録】篠山町雨石山 (林靖彦ほか: 1995), 多可郡中町 (松尾隆人: 2003), 加美町鳥羽, 加美町三谷 (兵庫昆: 2001), 川西市笹部, 川西市多田院, 猪名川町木間生, 宝塚市滝ノ平 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】2exs, 宍粟市赤西, 6-VI-2010; 2♂, 神河町砥峰高原, 13-IX-2009; 2exs, 相生市三濃山, 21-II-2011; 1ex, 吉川町, 16-V-1994; 1ex, 神戸市谷上, 24-VI-1992; 1ex, 神戸市道場, 5-V-2004; 7exs, 神戸市藍那, 9-VIII-2002.

本州・四国・九州・南西諸島に分布, 原産地は Burma. 県内には広く分布し個体数も多い. 各種の倒木や朽木, 立枯木, 衰弱木, 粗朶など広汎な植物体に見られる. 南方系の種類である.

14. ヤセアトキリゴミムシ *Mochtherus luctuosus* (Putzeys, 1875)

【文献記録】篠山町雨石山 (林靖彦ほか: 1995), 氷ノ山 (高橋匡: 1982), 加美町鳥羽 (兵庫昆: 2001), 川西市笹部, 川西市大和, 川西市芋生, 川西市東畦野, 猪名川町内馬場, 宝塚市滝ノ平, 篠山町浜谷 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】2exs, 宍粟市赤西, 4-V-2011; 2exs, 篠山市鐔市, 25-X-1997; 3♂, 篠山市後川新田 500m, 15-IV-2012; 1ex, 吉川町, 16-V-1994; 2exs, 神戸市道場, 18-IX-2002; 5exs, 神戸市藍那, 18-IX-2002.

本州・四国・九州に分布。県内には広く分布し個体数も多い。各種の倒木や朽木, 立枯木, 衰弱木, 粗朶など広汎な植物体に見られ, シイの古木樹皮下で越冬個体が得られた例がある。

15. キボシアトキリゴミムシ *Anomotarus stigmula* (Chaudoir, 1852)

【文献記録】豊岡市弥栄町 (高橋匡: 1982), 神戸市須磨区 (HP)

本州・四国・九州・南西諸島に分布, 原産地は北インド。県内の記録は少ない。主に森林内の落葉下などに生息しており, また小型種のため発見が難しい。落ち葉や林床土壌のシフティングで得られることが多い。

16. アオアトキリゴミムシ *Calleida (Callidiola) onoha* (Bates, 1873)

【文献記録】Hiogo (Bates: 1873), 氷上郡 (岸田剛二ほか: 1975), 篠山町雨石山 (林靖彦ほか: 1995), 甲東園, 川西市笹部, 猪名川町槻並, 宝塚市滝ノ平 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 城崎町来日岳, 7-VII-1997; 2♂, 篠山市後川新田 500m, 15-IV-2012; 1ex, 宝塚市佐曾利, 9-VII-1994.

北海道・本州・四国・九州に分布, 原産地は兵庫。県内には広く分布するが, 一般にはそれほど多くない。各種の広葉樹の枝葉上などに見られ, クリの花から採集された記録もある。冬季はケヤキやアカガシなどの樹皮下で成虫態で越冬する。幼虫も記載されている。

17. キガシラアオアトキリゴミムシ *Calleida (Callidiola) lepida* Redtenbacher, 1868

【文献記録】篠山町 (岸田剛二ほか: 1975), 洲本市安乎町 (堀田久: 1959), 洲本市猪鼻ダムほか (高橋寿郎: 1998), 氷ノ山ほか (高橋匡: 1982), 川西市笹部, 加古川 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】2exs, 加西市西剣坂町, 22-VI-2010; 1ex, 神戸市淡河, 11-VIII-1992; 1ex, 神戸市藍那, 10-X-2011.

本州・四国・九州に分布, 原産地はChina, Hongkong。県内には広く分布し, 各種広葉樹や高茎草本の枝葉上に見られることが多い。灯火にも飛来し, 冬季はガケなどに潜って越冬する。大変きれいな種類で, 初めて採集した時には感激した憶えがある。

18. メダカアトキリゴミムシ *Orionella lewisii* (Bates, 1873)

【文献記録】多可郡中町 (松尾隆人: 2009), 神戸市須磨一ノ谷, 川西市笹部, 川西市大和, 猪名川町槻並 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 三田市木器, 3-VI-1990.

北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布, 原産地は長崎。県内の記録は少ない。各種広葉樹の枝葉上で見られるが, 粗朶で得られることが多い。

19. アリスアトキリゴミムシ *Lachnoderma asperum* Bates, 1883

【文献記録】Kammaki (初宿成彦: 2012).

本州と九州に分布, 原産地は箱根山。Batesは記載論文のなかで, アリの巣の中で死骸が見つかったと記述しており, これが和名の元とされているが, アリとの関係は長い間疑問視されていた。しかし, 比較的最近になってアリと関わる観察事例や採集記録が複数報告されており (例えば, 森: 1997, 豊田: 2000a, 2000b, 森: 2006), カワラケアリやトビイロケアリと密接に関係していることが確実となっている。森 (2006) によると, 新成虫の発生は晩秋で, 初冬でも活動する個体が観察されている。大阪市内の淀川河川敷や, 京都市の宇治川では多く見つかるが, 県内ではなかなか発見できない。

20. コアアトキリゴミムシ *Taiconia aurata* Bates, 1873

【文献記録】神戸市六甲 (初宿成彦: 2012).

本州・四国・九州に分布, 長崎原産。九州本土では比較的多く見られるが, 東に行くほど少なくなり近畿地方以东ではほとんど見られなくなる。広葉樹などの樹上や草本上に生息しており, スギの樹皮下で越冬中の個体が確認されている。

21. ヤホシゴミムシ *Lebidia octoguttata* Morawitz, 1862

【文献記録】篠山町 (岸田剛二ほか: 1975), 宝塚市 (新家勝: 1988), 三原郡論鶴羽山ほか (高橋寿郎: 1998), 家島本島 (上田尚志: 1981), 扇ノ山ほか (高橋匡: 1982), 神戸市六甲山 (八木剛ほか: 2002), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか: 2003), 加美町千ヶ峰 (兵庫昆: 2001), 神戸市六甲, 西宮市畑山, 芦屋市奥池, 宝塚, 川西市笹部, 猪名川町内馬場, 西宮市塩瀬, 雪彦山, 青垣町粟鹿山, 佐用町大撫山, 波賀町音水 (初宿成彦: 2012).)

【標本記録】1ex, 養父市氷ノ山スキー場, 14-VI-2008; 1ex, 加西市青野ヶ原, 18-XI-1995; 2exs, 三田市大船山, 14-XII-2003; 9exs, 神戸市道場, 13-I-2007; 10exs, 神戸市太山寺, 25-III-2007.

北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布, 函館が原産。広葉樹などの樹上に生息し, 花で有られること

もある。冬季はオサ堀の時にガケなどからよく出てくる種類で、時には集団越冬することもある。

22. フ タ ツ メ ゴ ミ ム シ *Lebidia bioculata bioculata* Morawitz, 1863

【文献記録】六甲山紅葉谷 (初宿成彦: 2012).

北海道・本州・四国・九州に分布, Kumangataki(日本)原産。前種よりも少なく, 県内記録も大変に少ない。広葉樹などの樹上に生息する。堀 (2008) は樹冠に設置した FIT(衝突版トラップ) で本種が多く捕獲されたことを報告し, 本種が高い樹冠部を主な生息場所としていると推察している。灯火にも飛来, カエデの花やサワフタギの花で得られた例もある。

23. クロヘリアトキリゴミムシ *Parena nigrolineata nipponensis* Habu, 1964

【文献記録】氷上郡 (岸田剛二ほか: 1975), 出石町 (高橋匡: 1982), 神戸市島原, 住吉, 甲東園, 宝塚市山本 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 宝塚市大原野, 10-VIII-1996; 2exs, 御津町揖保川, 27-XI-2010.

本州・四国・九州に分布。アカイラガ *Phrixolepia sericea* やアメリカシロヒトリ *Hyphatria cunea* の幼虫を捕食することが知られている。広葉樹などの樹上に生息する。灯火にも飛来し, スギやヒノキの樹皮下で越冬する記録もある。タテスジゴミムシは異名。

24. アオヘリアトキリゴミムシ *Parena latecincta* (Bates, 1873)

【文献記録】Hiogo(Bates: 1873), 洲本市安乎町 (高橋寿郎: 1998), 豊岡市 (高橋匡: 1982), 川西市笹部, 東畦野 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 宝塚市大原野, 10-VIII-1996; 1♂, 相生市三濃山, 25-IX-2010.

北海道・本州・四国・九州に分布, 兵庫・横浜が原産。広葉樹などの樹上に生息する。ガマズミの花上で得られた例や, 灯火に飛来した記録もある。

25. ヒトツメアトキリゴミムシ *Parena monostigma* (Bates, 1873)

【文献記録】Hiogo (Bates: 1873), 氷上郡 (岸田剛二ほか: 1975), 篠山町雨石山 (林靖彦ほか: 1995), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか: 2003), Mt. Myoko(吉武ほか: 2011), 川西市笹部 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 養父町ハチ高原, 1-VI-2012.

北海道・本州・四国・九州に分布, 兵庫・長崎が原産。広葉樹などの樹上に生息する。

26. ミツアナアトキリゴミムシ *Parena tripunctata* (Bates, 1873)

【文献記録】洲本市先山 (高橋寿郎: 1998), 扇ノ山 (高橋匡: 1982), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか: 2003), 養父市福定, 宍粟市坂の谷 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】2exs, 養父町氷ノ山スキー場, 2-VI-2007; 3♀, 宍粟市坂の谷, 4-VII-2010; 1ex, 神河町砥峰高原, 27-VI-2010.

北海道・本州・四国・九州に分布, 原産地は Tanga, Kawachi. 広葉樹などの樹上に生息する。

27. オオヨツアナアトキリゴミムシ *Parena perforata* (Bates, 1873)

【文献記録】Hiogo(Bates: 1873), 氷上郡 (岸田剛二ほか: 1975), 三原郡諭鶴羽山 (高橋寿郎: 1998), 氷ノ山 (高橋匡: 1982), 神戸市六甲山 (八木剛ほか: 2002), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか: 2003), 宝塚市滝ノ平 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 八千代町, 30-VI-1997; 2exs. 洲本市先山, 2-VIII-2008.

北海道・本州・四国・九州に分布, 原産地は兵庫。クワゴマダラヒトリ *Spilarctia imparilis* の狭食性捕食者として知られており, 多くの研究報告がある (例えば, 土生ほか: 1967, 本藤: 1984)。広葉樹などの樹上に生息し, 灯火にもよく飛来する。また, 夜間にリョウブの花から得られた例もある。オオミツアナアトキリゴミムシは異名。

28. クロサヒラタアトキリゴミムシ *Parena kurosai* Habu, 1967

【文献記録】Mt. Maya(Habu: 1967), 波賀町, 27-X-1974, 遊磨正孝 (田尾美野留: 1984).

【標本記録】1♂ 1♀, 宍粟市赤西溪谷, 7-VIII-2010.

前種とよく似ているが, 上翅第3間室に3孔点を具える (前種は4孔点) ことで区別でき, 交尾器ではより明確に区別ができる。全国的にも希な種類で記録も少ない。本州と九州に分布し, 原産地は東京都高尾山附近。森 (2012) は京都府福知山市 (由良川) での採集記録と観察情報について報告し, エノキの新芽やウメ, クリの木から比較的多くの個体を採集しているが, 餌生物等の生態情報は確認できなかったとしている。他所ではクリの花から得られた記録もある。

なお, 兵庫県を原産地として *Parena wrasei* Kirschenhofer, 2006 (和名無し) が新種記載されている (記載文の原産地は Asago-gun, Okuno-Cho, Tochiyara)。体長は 11mm で, 首・前胸背・上翅は暗赤褐色, 標本画像では上翅条溝がやや目立っているがクロサヒラタアトキリとよく似ている。

29. ヒラタアトキリゴミムシ *Parena cavipennis* (Bates, 1873)

【文献記録】Hiogo(Bates : 1873), 豊岡市 (高橋匡 : 1982), 多可郡中町 (松尾隆人 : 2003), 甲東園, 神戸市六甲, 川西市笹部 (初宿成彦 : 2012).

【標本記録】1ex, 安富町雪彦山, 24-XII-1994; 2 ♀, 神戸市淡河, 25-V-2013.

本州・四国・九州・南西諸島に分布, 兵庫が原産. チャドクガ *Euproctis pseudoconsersa* など鱗翅目の幼虫を捕食することが知られている (黒沢 : 1992). 広葉樹などの樹上に生息し, 灯火にも多く飛来する. ガケなどの土中で越冬個体が得られることがある.

30. オオヒラタアトキリゴミムシ *Parena laesipennis* (Bates, 1873)

【文献記録】出石町寺坂, 日高町東河内 (高橋匡 : 1982), 猪名川町内馬場 (初宿成彦 : 2012).

【標本記録】1 ♀, 安富町雪彦山, 24-XII-1994; 1 ♂, 川西市一庫ダム, 25-XI-1988; 1 ♀, 今田町立杭, 21-VI-1988.

北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布, 原産地は長崎. 前種とともに南方系の種類で, 各種広葉樹の樹上に生息し, 灯火にもよく飛来する. 冬季は土中で越冬する. 前種と似ているが体長がやや大きく, 前胸背や上翅はより長めとなる. 上翅条溝はほとんど目立たず点刻列となるなどの違いがある.

兵庫県におけるアトキリゴミムシ類 30 種の記録を整理して報告した. アトキリゴミムシ亜科のジュウジアトキリゴミムシ属 *Lebia* 以降の種類や分類群については, 続報の (2) で報告の予定である. なお, 参考文献については (2) の巻末にまとめて掲載する.



1. フタモンクビナガゴミムシ



2. チャバネクビナガゴミムシ



3. クロモンヒラナガゴミムシ



4. ダイミョウツブゴミムシ



5. カドツブゴミムシ



6. クロツブゴミムシ



7. トゲアトクリゴミムシ



8. ダイミョウアトクリゴミムシ



9. コキノコゴミムシ



10. ヒメキノコゴミムシ



11. ハギキノコゴミムシ



12. キノコゴミムシ



13. コヨツボシアトクリゴミムシ



14. ヤセアトクリゴミムシ



15. キボシアトクリゴミムシ



16. アオアトキリゴミムシ



17. キガシラアオアトキリ
ゴミムシ



18. メダカアトキリゴミムシ



19. アリスアトキリゴミムシ



20. コアオアトキリゴミムシ



21. ヤホシゴミムシ



22. フタツメゴミムシ



23. クロヘリアアトキリ
ゴミムシ



24. アオヘリアアトキリ
ゴミムシ



25. ヒトツメアトキリ
ゴミムシ



26. ミツアナアトキリゴミムシ



27. オオヨツアナアトキリ
ゴミムシ



28. クロサヒラタアトキリ
ゴミムシ



29. ヒラタアトキリゴミムシ



30. オオヒラタアトキリ
ゴミムシ